

巻頭言

山のトイレを考える会 代表 小枝正人

北海道の山を愛する皆さま この1年、いかがお過ごしでしたか。

令和6年（2024年）は元旦に能登半島地震が起きました。240名を超す方々が亡くなられ、今でも避難を余儀なくされている多くの方がおられます。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

令和5年度（2023年度）の「山のトイレを考える会」は、皆さまのご支援に支えられて、この1年も元気に活動をやり遂げることが出来ました。本当にありがとうございました。

ご報告したい嬉しいことが1つあります。美瑛富士トイレ管理連絡会（北海道の山岳団体9団体で構成）・美瑛町・環境省による美瑛富士避難小屋携帯トイレブースの維持・点検パトロール活動を事務局として継続出来ました。その継続した活動の結果、植生が回復しトイレ道も判別できないほど薄くなってきました。これからも官と民が協働する良い活動事例として継続していきたいと考えています。

難しく悩んでいることも1つあります。大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会が発足し、そこに参加して議論・協議が出来るようになりました。多くの課題に優先順位をつけて解決に向け検討・協議・議論をしています。その中で検討協議を進めてきた白雲岳避難小屋トイレ再整備方式について決め切れません。対策として検討を進めていた土壌処理TSS方式は、避難小屋周辺の高山植物群落の移植が必要となり、土壌掘削による影響も避けられません。再整備方式がどのような方法となるか、合意決定までには、更に1年程度の検討・議論の時間が必要となるでしょう。

裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置の検討については、令和6年度が環境省による3年間の携帯トイレブース設置検証業務の最終年度になります。目指す方向が明らかになる最終報告書が待ち遠しいです。

これからの新しい明るい話題は、今年の夏頃に誕生する日高山脈国立公園（正式名称は未定）のことで。本日の第25回目のフォーラムでは「どうする！どうなる？日高山脈国立公園化 ～トイレ・避難小屋・野営地・登山道～」をテーマに5名のパネラーによるパネルディスカッションを行います。では一緒に議論を深めましょう。

結びはいつもの次の言葉です。

～山岳環境問題改善の活動は官民協働の仕組み構築こそが未来への道である～